



宝清寺

秋の御彼岸

九月二十日〜二十六日

「悲願」という言葉を「広辞苑」で調べてみると、「仏・菩薩がその大悲から発する請願。阿弥陀如来の四十八願、薬師如来の十二願などの類」とあります。一般に「せひとも達成しようとする願い」などとして使われていますが、悲願という言葉は本来仏教用語です。悲願とは願をたてること、慈悲の心を持つ事です。願を立てる事を発願と言いますが、今の人は「願を立てる」などとあまり言いませんが、仏教には「四弘請願」という教えがあります。一、すべての人を救って悟りに導くという誓い。二、迷いはつきませんが、それを断つ

の人生を確立したいものです。願を立て、より意義のある自分の人生を確立したいものです。

「悲願」という言葉を「広辞苑」で調べてみると、「仏・菩薩がその大悲から発する請願。阿弥陀如来の四十八願、薬師如来の十二願などの類」とあります。一般に「せひとも達成しようとする願い」などとして使われていますが、悲願という言葉は本来仏教用語です。悲願とは願をたてること、慈悲の心を持つ事です。願を立てる事を発願と言いますが、今の人は「願を立てる」などとあまり言いませんが、仏教には「四弘請願」という教えがあります。一、すべての人を救って悟りに導くという誓い。二、迷いはつきませんが、それを断つ

の人生を確立したいものです。願を立て、より意義のある自分の人生を確立したいものです。

「悲願」という言葉を「広辞苑」で調べてみると、「仏・菩薩がその大悲から発する請願。阿弥陀如来の四十八願、薬師如来の十二願などの類」とあります。一般に「せひとも達成しようとする願い」などとして使われていますが、悲願という言葉は本来仏教用語です。悲願とは願をたてること、慈悲の心を持つ事です。願を立てる事を発願と言いますが、今の人は「願を立てる」などとあまり言いませんが、仏教には「四弘請願」という教えがあります。一、すべての人を救って悟りに導くという誓い。二、迷いはつきませんが、それを断つ

の人生を確立したいものです。願を立て、より意義のある自分の人生を確立したいものです。

「悲願」という言葉を「広辞苑」で調べてみると、「仏・菩薩がその大悲から発する請願。阿弥陀如来の四十八願、薬師如来の十二願などの類」とあります。一般に「せひとも達成しようとする願い」などとして使われていますが、悲願という言葉は本来仏教用語です。悲願とは願をたてること、慈悲の心を持つ事です。願を立てる事を発願と言いますが、今の人は「願を立てる」などとあまり言いませんが、仏教には「四弘請願」という教えがあります。一、すべての人を救って悟りに導くという誓い。二、迷いはつきませんが、それを断つ

の人生を確立したいものです。願を立て、より意義のある自分の人生を確立したいものです。

「開目抄」を著わしました。その中で聖人は「我日本の柱とならむ、我日本の眼目とならむ、我日本の大船とならむ」と決意を表明されました。日蓮聖人は、自らの生涯は、この請願を実現するためのものであるとしたのです。言い換えれば、日蓮聖人は自分こそがお釈迦さまの悲願を継承し、主（柱）、師（眼目）、親（大船）の三つの徳をそなえた末法の仏の使いであることを表明したのと言えます。日蓮聖人は、この請願によって、「・・・されば日蓮は日本第一の法華経の行者なり」と、「法華経」の行者として不退転の決意を示したのです。中国の天台大師も、日本の伝教大師（最澄）

「開目抄」を著わしました。その中で聖人は「我日本の柱とならむ、我日本の眼目とならむ、我日本の大船とならむ」と決意を表明されました。日蓮聖人は、自らの生涯は、この請願を実現するためのものであるとしたのです。言い換えれば、日蓮聖人は自分こそがお釈迦さまの悲願を継承し、主（柱）、師（眼目）、親（大船）の三つの徳をそなえた末法の仏の使いであることを表明したのと言えます。日蓮聖人は、この請願によって、「・・・されば日蓮は日本第一の法華経の行者なり」と、「法華経」の行者として不退転の決意を示したのです。中国の天台大師も、日本の伝教大師（最澄）

「開目抄」を著わしました。その中で聖人は「我日本の柱とならむ、我日本の眼目とならむ、我日本の大船とならむ」と決意を表明されました。日蓮聖人は、自らの生涯は、この請願を実現するためのものであるとしたのです。言い換えれば、日蓮聖人は自分こそがお釈迦さまの悲願を継承し、主（柱）、師（眼目）、親（大船）の三つの徳をそなえた末法の仏の使いであることを表明したのと言えます。日蓮聖人は、この請願によって、「・・・されば日蓮は日本第一の法華経の行者なり」と、「法華経」の行者として不退転の決意を示したのです。中国の天台大師も、日本の伝教大師（最澄）

「開目抄」を著わしました。その中で聖人は「我日本の柱とならむ、我日本の眼目とならむ、我日本の大船とならむ」と決意を表明されました。日蓮聖人は、自らの生涯は、この請願を実現するためのものであるとしたのです。言い換えれば、日蓮聖人は自分こそがお釈迦さまの悲願を継承し、主（柱）、師（眼目）、親（大船）の三つの徳をそなえた末法の仏の使いであることを表明したのと言えます。日蓮聖人は、この請願によって、「・・・されば日蓮は日本第一の法華経の行者なり」と、「法華経」の行者として不退転の決意を示したのです。中国の天台大師も、日本の伝教大師（最澄）

「開目抄」を著わしました。その中で聖人は「我日本の柱とならむ、我日本の眼目とならむ、我日本の大船とならむ」と決意を表明されました。日蓮聖人は、自らの生涯は、この請願を実現するためのものであるとしたのです。言い換えれば、日蓮聖人は自分こそがお釈迦さまの悲願を継承し、主（柱）、師（眼目）、親（大船）の三つの徳をそなえた末法の仏の使いであることを表明したのと言えます。日蓮聖人は、この請願によって、「・・・されば日蓮は日本第一の法華経の行者なり」と、「法華経」の行者として不退転の決意を示したのです。中国の天台大師も、日本の伝教大師（最澄）

「開目抄」を著わしました。その中で聖人は「我日本の柱とならむ、我日本の眼目とならむ、我日本の大船とならむ」と決意を表明されました。日蓮聖人は、自らの生涯は、この請願を実現するためのものであるとしたのです。言い換えれば、日蓮聖人は自分こそがお釈迦さまの悲願を継承し、主（柱）、師（眼目）、親（大船）の三つの徳をそなえた末法の仏の使いであることを表明したのと言えます。日蓮聖人は、この請願によって、「・・・されば日蓮は日本第一の法華経の行者なり」と、「法華経」の行者として不退転の決意を示したのです。中国の天台大師も、日本の伝教大師（最澄）

「開目抄」を著わしました。その中で聖人は「我日本の柱とならむ、我日本の眼目とならむ、我日本の大船とならむ」と決意を表明されました。日蓮聖人は、自らの生涯は、この請願を実現するためのものであるとしたのです。言い換えれば、日蓮聖人は自分こそがお釈迦さまの悲願を継承し、主（柱）、師（眼目）、親（大船）の三つの徳をそなえた末法の仏の使いであることを表明したのと言えます。日蓮聖人は、この請願によって、「・・・されば日蓮は日本第一の法華経の行者なり」と、「法華経」の行者として不退転の決意を示したのです。中国の天台大師も、日本の伝教大師（最澄）

「開目抄」を著わしました。その中で聖人は「我日本の柱とならむ、我日本の眼目とならむ、我日本の大船とならむ」と決意を表明されました。日蓮聖人は、自らの生涯は、この請願を実現するためのものであるとしたのです。言い換えれば、日蓮聖人は自分こそがお釈迦さまの悲願を継承し、主（柱）、師（眼目）、親（大船）の三つの徳をそなえた末法の仏の使いであることを表明したのと言えます。日蓮聖人は、この請願によって、「・・・されば日蓮は日本第一の法華経の行者なり」と、「法華経」の行者として不退転の決意を示したのです。中国の天台大師も、日本の伝教大師（最澄）